

桜萩会だより

第10号

宮崎県立小林中学校
小林高等女学校
小林高等学校
関東地区同窓会

編集兼発行人
永崎秀一郎
陽光印刷内務局
104 中央区八丁堀
3-11-13石渡方
昼03(553)9707
夜03(615)1795

昭和62年5月10日発行

第十二回総会を迎えて

副会長 橋口和人(高一回)

総会を迎えるに当たって、何時も思うことがあります。会員の皆様が多数集って下さるだろうか？ 桜萩会まつりの成否の鍵は、この一事にかかっておるのです。そしてこの一事にかけて、幹事長をはじめとして幹事の皆様の奉仕活動が集約されるのです。誠に大変な御苦労をおかけしているとお心から感謝しております。そして、この総会が一回だけでなく、既に十二回を迎えることになっております。このことは、幹事の皆様の御努力を支えて下さっている

第十二回桜萩祭りに御参加を

幹事長 永崎秀一郎(高四回)

桜萩会会員の皆様には、お元気に過ごしたことと拝察致します。今年もまた皆様にお会い出来る日が近づき心弾む思いです。桜萩祭りの開催日は、六月六日(土)、会場は昨年と同じなので、気軽に御参加頂けるものと思っております。いつも申し上げている事ですが、主役は会員の皆様です。私共幹事がどんな企画を考えても、会員各位の御協力がなければ何も出来ません。この点御理解の上、一人でも多くの方に御参加頂きたく、声を大にしてお願いする次第です。

祝十号記念号発刊

校長 吉田千郷

関東地区同窓会におかれましては、年毎に充実され、この度会報十号と再会しようと思われませんが、中には「何だつまらないじゃないか、もう来ないぞ」と思われる方もいらっしゃると思います。このもう来ないぞと思われる要素は何なのだろうか、それが知りたいのです。

「桜萩会に誇りを」

森山 誠一 (田中十五回卒)

早いもので「桜萩会だより」も第十号になる由。ここまで漕ぎつけたのも、会員のご協力と幹事のご尽力に負うもので、謝意を込めてお祝申し上げます。

ごあいさつ

小林高等学校 校長 川畑 安雄

昭和二十四年四月から、新任の国語科教師として母校に六年勤務し、昭和三十一年四月からは県内を転々として三十二年に故郷の地を踏んで母校へ帰任しました。全く、今浦島そのもので、三十年の歳月にすつかり変わった美しい町並みに眼を見張るばかりのこの頃です。また、学校もすつかり変わり、面目を一新して、今では県下有数の大学進学とスポーツの両立を伝統とする名門校として成長してまいりました。



ダブルスコアで踏破し、同日の準々決勝でその薫業昨年もこのチームに敗れており雪辱戦となった訳ですがと相対し、五十七対五十一と善戦したものの涙をむ結果となったことは皆様もご存知のことと思います。

小林高校女子バスケット チームへの激励

副幹事長 村田 浩平 (高十一回卒)

三月二十六日(二十九日)の間第十回全国高校バスケットボール選抜大会が東京で行われ、九州大会を制した小林高校女子チームが参加しました。



バスケットボール選手一同
小林高校女子
バスケットボール選手一同



創刊第10号おめでとうございませす

宮崎県知事 松形 祐堯 (田中十回)	印刷のことなら 陽光印刷 石渡 浩子	建築設備 空調エンジニアリング 橋口総合設備株式会社 代表取締役 橋口 和人 (高一回)	代表取締役 西田 忠司 (高五回)	代表取締役 日高 省三 (高二回)	宮崎県知事 松形 祐堯 (田中十回)
-----------------------	--------------------------	--	----------------------	----------------------	-----------------------

第四回 桜萩会ゴルフ大会 開催

桜萩会ゴルフ同好会幹事

永崎 秀一郎

- 優勝 永崎秀一郎(高四回)
アウト43 イン45 グロス88
ハンディ15 ネット73
- 二位 村田浩平(高十一回)
アウト46 イン50 グロス96
ハンディ22.8 ネット73.2
- 三位 日高省三(高二十回)
アウト51 イン52 グロス103
ハンディ27.6 ネット75.4
- 四位 大牟田 理(高九回)
アウト43 イン48 グロス91
ハンディ14 ネット77



スタート風景

小雨まじりの天候の中で熱戦が展開された。コースは富士山をバックに風光明媚な伊豆国際カントリークラブである。今年は若手の参加で一段と盛り上がり、新鮮味溢れるゴルフ大会であった。この会の呼び物は前夜祭である。ゴルフ場近くの「さちや」で焼酎を飲みながらの昔話、近況、ゴルフ談義に花が咲いた。まことに楽しい一夜である。

私の「イタリア生活」

伊藤 啓子(高十回)
田姓(吉川)

アルプスを越えてイタリアに入る一瞬、別世界に踏み込んだ感じがする。空の明るさは言うまでもなく、長旅の果てに、やっと人間に出会ったような、そんな思いをさせてくれる人々の顔がそこにあるからだ。一九八〇年、思いもよらず、夫の留学で、私達家族はイタリアのミラノ市に住むことになった。イタリア人は一般に好奇心が強く、素朴で、割き出しの感情を表し、おせっかいだといわれるが、その中に入ると、自分が自分のままでいられる安らぎがあった。何よりも、そこには人生を楽しむ術を知ったイタリア人の、人間中心の生活があった。夫は大学へ、娘は日本人学校へ、そして私はミラノ市立の語学学校へ通い始めると、交友の輪はまたたく間に広がっていった。休みごとに招待してくれる友



前列右端が筆者

「下駄とわらじ」

竹之下 勝民(高八回)

応援団にもいなかったのに、高下駄をカランカランと登下校していた。暑い鹿児島の子供時代でもそうだった。横浜市立大学に入ると人なみに靴にした。

キャンパスには、全学年を通じ宮崎県人は見当たらなかった。クラブの名簿に「宮城県」出身とあったのを見て、作成した同窓生が「あんな遠い所から……としばらく信じようとしなかった。

同じ思いをしてきたのか。九州各県の先輩たちは、母校の後輩みたいになり、いろいろ面倒をみてくれた。「のんびり下駄で歩こうなんてとんでもない」と交通ルールからたまたま込まれた。家庭教師を譲り、下宿先も世話をする。中古の昔話を置いていく先輩もいた。その結果、ゼミの卒業写真には、学生服の中でただ一人背広姿で納まっている。それほど昔の話なのかも知れない。

就職したのは、横浜に本社のある新聞社。警察署回りから始める。逮捕された人が、九州出身だと、まゆをひそめ、たまに宮崎県人だったりすると記事にするのをためらった。それから二十余年、運動部以外は各部を一巡した。政経部は長かった。「記者が選挙に立候補しても最初は必ず落選する。掲載され、うらんでいる市民が多いからだ」と社の先輩に聞かされたものだ。

今では、編集委員としてコラムを担当している。大手新聞の一部でも読者をほのめるとさせ、喜ばれるコラムを設けている。その物質似てなく、写真付きで、始めた。横浜を中心に外人もかなり登場させ、ユニークさを出そうと心掛けていた。

五月で一年になり、二百回目を越す。反響があるなかで、苦しい思いもある。「わらじ」と「わらじ」を同じように扱った。大学教授からの便りをうのみにしたからだった。

「私は地方で育ち、現在八十歳。便りの主のように東京生まれの六十歳だと、履いたこともないのでしよう。風通しはいいし、最高ですよ。読者の指摘はなぜか温かみさえ漂っている。務島のふもとで、下駄の歯音は快かった。鼻緒が切れるのを気にして歩いたのを思い出していた。

谷口(五十四年卒)

東京国際マラソンに優勝!!

田中 瑞穂(二十九年卒)

スカット爽やかな歓喜が駆け抜けた。谷口浩美(五十四年卒)が今年の東京国際マラソンを制覇した瞬間である。

「この優勝した谷口は、俺の後輩だよ。ホント……、宮崎の小林高校の後輩なんだよ」思わず、周囲の人達へ声高に話しかける。

二月の東京国際マラソンは、アジア大会優勝者の中山とアフリカ勢のメコンやサラ選手の争いであるといわれていた。早いペースの中で二十kmを過ぎたが、谷口はこの三人と先頭集団にいた。身引きな選手がいれば、勝負事は面白く観られる。まして、谷口は同窓の後輩、無条件買いの黒馬である。ソナナ気楽な応援をつづけていた。二十五kmを過ぎて、サラが遅れた。谷口は頑張り、中山とメコンにからんで走る。気楽な

(学年便り)

丸山 くに子
旧姓(華木)

昭和八年高女卒業以来半世紀ぶり、昨年十二月三日母校を訪問、校長先生始め多くの方々と御会ひした。丁度テスト中とかで、生徒さんの多くには御会ひ出来なかったが、広いお部屋で数人の方々に「ユネスコと交際交流について」と題して講演をした。

両親の墓参が主なる目的で、妹二人も小林高女出身で同行した。三人も同級生の集りへそれぞれ出かけた。私がお話をして下さるうちに昔の面影が浮んできた。なつかしい小林辯が胸をかつと熱くした。

私は昭和十八年夏、主人が群馬県に転任したので、こちらに住むこと四十五年。

学校については、申さないが御無沙汰を重ねてしまった。宮崎で生れた長男、長女も今は社会人として活躍。

私自身現在は、社団法人日本ユネスコ協会連盟の理事、群馬県社会教育委員、桐生ユネスコ協会会長である。

又群馬県九州人会の副会長で近く桐生市で開催の予定。

三月十二日関東に居住する同級生に呼びかけて、東京で御会ひした。卒業以来始めて見る老婦人に一驚、帝国ホテルのロビーで昔話に花が咲いた。みんな涙を流して喜び合った。今年の秋も小林へ墓参に帰るつもり。なつかしい母校に何が土産に良いか、今から準備をしよう。胸の膨らむ思いで一杯である。

桜萩会の皆様にお会いする喜びを、今から待つ次第。

編集後記

春の草花が美しく咲き誇る季節になりました。

今般、創刊第十号記念号として増ページ、ボリュームのある記事の掲載を企画したのですが、原稿が集まらず、編集室の人手不足もあって、従来と同じ内容の桜萩会便りになってしまいました。ことをお詫びする次第です。会報発行はボランティアでやっていますので、なかなか思う様に運ばない現状で、編集経験のある方のお手伝いを切望するものです。

第十二回桜萩祭りを六月に控え、記事も総会中心に編集しましたので、いくらかでも総会の成功に役立てればと思います。願わくば例年を上廻る参加者がありますよう念じます。

我等が母校も進学校として、県内上位にランクされ、スポーツでは高校駅伝、高校女子バスケットの全国大会に出場する等、大活躍しております。母校の後輩の活躍に声援を送るうではありませぬか。

最後に皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。

編集担当
永崎秀一郎(高四回)
石渡 浩子(田女二十二回)

自昭和61年4月1日 至昭和62年3月31日	
収入の部	支出の部
年会費	総会開催費
291,000円	688,740円
寄附金	幹事会費用
257,000	55,605
総会費	会報発行費
692,000	307,390
広告費	通信費
280,000	28,180
雑収入	寄附金及び謝礼
61,000	130,000
利息	振込手数料
52,192	1,600
前期より繰越	名簿送付送金
33,054	40,440
	ソフトボール大会
	9,650
	次期繰越
	404,641
合計	合計
1,666,246	1,666,246

昭和三十二年六月六日
会計監査 有馬 憲幸

昭和六十一年度会計報告
左記の通り報告致します
昭和三十二年六月六日
有坂久美子
有馬 憲幸

弁護士
立野 輝二
(田中十七回)

事務所
〒100 東京都千代田区神田駿河台
三丁目一番地日光ビル4階
立野横山法律事務所
電話(〇三)二九一―九四六五

代表取締役 木下 剛耿
(高一回)

〒254 平塚市夕陽ヶ丘七―四
電話(〇四六三)二一―三二二五

一級建築士事務所
株式会社サン設計事務所
代表取締役 山口 和彦
(高一回)

〒130 東京都中央区日本橋馬喰町
電話(〇三)六六―一〇八六

温 水 忠二
(高七回)

〒170 東京都豊島区東池袋
電話(〇三)九八―一八四二五

創刊第10号おめでとうございます

メガネ・コンタクトの御用命は
株式会社メガネ光学堂
株式会社お茶の水コンタクト

瀬戸口 千枝子
(旧姓/佐藤)
(高十一回)

〒310 草加市高砂一―十九―三
電話(〇四八九)二八―五二二五